

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200289		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム 倉敷・楽々苑 (Aユニット)		
所在地	岡山県倉敷市西岡1153-1		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念の「自然・安心・快適」を元に四季を感じ、安心して過ごして頂けるように、又毎日を快適に過ごして頂けるように職員一同心がけています。
・ご自分の好きなように自由に過ごして頂けるように、又どのように援助していけば楽しく過ごして頂けるかを考えて毎日を振り返っています。
・医療・歯科なども往診して頂いています。体調不良時にも早く対応して頂き、医療面にも安心して過ごして頂ける環境づくりをしています。
・地域の方との交流にも参加させて頂くなどし、楽しく、快適に過ごして頂けるように心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200289-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 9 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世代を超えた2人の管理者がタッグを組み、「利用者ファースト」の一節に、福祉への熱い思いを込めていた。事業所理念にある「自然」とは、事業所の風土から自然に触れることを指すだけでなく、利用者と自然体に関わることも含めていると語る。法人が掲げる、「0歳から100歳までの総合福祉」から、利用者目線で考えることをモットーに、どうすれば日常生活における基本的行動にも楽しみを抱きながら、その人らしく生活できるのかを事業所全体で考え、行動に移していた。その一環として職員教育にも力を入れていて、勉強会を開く時には職員がレクチャーしたり、職員会議の司会進行を毎月変えることで、意見を挙がりやすくなり、職員のリフレッシュする時間を大切にしたりすることで、利用者と濃い向き合い方をすることに繋げていた。利用者の生活に恵みを与えたいと、チームが一丸となる姿勢に溢れる事業所だった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「自然、安心、快適」を職員全員が把握し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。	理念は、事務所とホールに掲示している。会社と事業所の理念を毎日唱和したり、新入社員が入った際にはオリエンテーションを行ったりすることで、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会、行事、小学校の行事、地域活動には参加し、交流を深めている。現在コロナ対応にて参加は控えている。	町内会に入っていて、職員が回覧板を回したり、清掃に参加したりすることで、関係を継続している。地域の方から事業所として活用できるものや、隣接する保育園からぼすたーも受け取っている。事業所の外観学をいつでも受け入れていることから、地域に浸透し始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のお祭りや、教会のバザーやお祭り、小学校行事に積極的に参加し、地域貢献している。現在コロナ対応にて参加は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っている。他職種の方の参加をいただき、意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。コロナ対応の為、実施延期が続いている	運営推進会議として集まるのが難しく、利用者家族には、月に1回、ケアマネージャーが電話を入れ、状況を伝えている。キリスト教会の方が民生委員にもなっていて、立地も近いことから、日頃の交流から地域の情報共有を図っている。また、行事等の様子をネット上に公開している。	状況報告だけに留まらないように、多方面からの意見が受けられる体制を作ってはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加や市の介護保険課へ出向き、事業所の実情等の話し、協力関係を築くようになっている。コロナ対応の為、実施延期が続いている。	月に一回、役場や包括支援センター、病院へのあいさつ回りを行っている。継続して行ってきたことから、管理者とケアマネージャーが顔役となり、詳細に情報を提供し合える関係性が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画の中での勉強会を行い、共有認識を図り、身体拘束について全スタッフが理解を深めるように努めている。	利用者との関りが強くなることで、慣れが生まれてしまうため、日頃の言葉遣いにも配慮することを伝えている。委員会として実態把握に努め、月に1度状況を回覧し、職員に周知している。夕方に帰宅願望が出やすい利用者には、職員が話しかけることで気持ちの緩和を図り、ケース発生前のケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画として勉強会を行い、高齢者虐待防止マニュアルを参考にし、スタッフ全員共同認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もおられた。又、勉強会においても制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より契約に至る間、電話連絡などにより、不安解消に努め、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族の意見を聞き取り、運営に反映している。又、ケアプランにも本人、家族の思いも反映している。	月に1度、ケアマネージャーが利用者家族に電話を入れて要望を聞いている。利用者からは食への要望が強く、コロナ対策を踏まえて対応している。一つ一つの要望に、利用者の認知の状態を勘案しつつ、可能な限り寄り添える工夫をしていて、利用者が家に電話したいと話した時は、家族と相談しながら受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞いたりしている。定期的にミーティングを行い、意見、提案を出しやすい機会を設け、反映させている。	職員からの意見は、委員会を通すことで、聞き取りやすくしている。月ごとにゲートキーパーとなる職員を代えていて、意見の言いやすい環境も整えている。年に2回、管理者以上の役職の職員が意向の聞き取りを行う場も作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践者研修、管理者研修、介護福祉士等資格取得の支援を行い、資格習得後は各自向上心を持ち、仕事に活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は誰でも行けるようにしている。資格習得希望者には勤務配慮をしている。苑内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やケアマネ交流会に参加させて頂き、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が希望される事、困った事又不安に思っていることを言えるような環境を作り、傾聴共感し、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に連絡を取り、困っていることや不安に思っていることが言えるように傾聴し、受け止められるような環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で本人、家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でされて嫌な事はしない、との思いで職員間で話し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら、本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方々との関係が途切れないように電話等支援に努めている。	家族からは面会したいとの意向が多く見られているため、ビデオ通話等を活用して面会を行っている。利用者の親族から連絡を取りたいと申し出られることもあり、関係性を鑑みたくて、関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う合わないを日頃から観察し、入居者同士支え合う雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し退去されてもいつまでも相談連絡できる関係を維持できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを傾聴し、意向を職員全員で共有している。	利用者の思いを、これまでの生活の様子や趣味嗜好を基に、身振り手振り等からも、職員が推察している。利用者が思いを発しやすいように、普段のコミュニケーションを密に取ることで把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時等にこれまでの本人の生活歴、生活環境の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動記録、バイタルチェック、ケアプランにより把握している。連絡ノートにより全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人、家族と必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に作成し、2週間後には見直しを行っている。その後は、短期で半年、長期で1年間の更新している。事業所内での様子は、会議の場だけでなく、その都度直接連絡したり、タブレットにタイムラインとして揚げたりすることで、職員と情報の共有を行い、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所同士の連絡情報交換により、本人や家族の希望に添えるような支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として小学校や教会を訪問し、交流を深めている。コロナ対策の為、訪問は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医との関係は良く、何事も相談できる体制を取っている。	提携先のかかりつけ医と歯科医が、毎週往診を行っている。他科への通院は、家族が対応していて、馴染の通院先に赴かれている。年に1・2回、歯科衛生士が口腔ケアの講習をしている他、個別指導も行っている。緊急時には、かかりつけ医も職員と一緒に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師により利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と話し合いながら早期退院も含め、情報交換できる関係作りが来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聴き、それに添って重度化に伴う意思の確認をし、説明を行って医師の往診を受けれるなど支援している。	看取り支援は、事前にキーパーソンとすり合わせ、方向性を定めている。経験豊富な職員が先導を切って、支援方法について、各職員への周知と教育を行っている。デンスカンファレンスを開き、経緯から支援方法、反省点を含めた振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	皆で勉強会を度々行い、全員で話し合い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害を想定して避難訓練を定期的に行っている。	年に3回、避難訓練を行っている。内1回は、水害を想定した訓練を行っていて、隣接している保育園の2階を避難先としている。緊急時の連絡は、現在電話を使っているが、より良い手段について検討を重ねている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、親しみの中に礼節を保ち、本人の希望や意向の把握に努めている。	基本的には、苗字に「さん」を付けて呼称している。ただし、苗字が同じ場合には、名前に「さん」を付けている。入浴や排泄を促す場合には、他の利用者に届かない声で、言葉かけを行っている。尊厳の保持を第一に考えて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分の思いや希望が言えるような雰囲気をつくり、日々密接な関係が保てるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの身体状況にあった暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、髪のカットをして頂いたり、男性の方の髭剃りを行う等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、食事や飲み物を楽しめるように支援している。	食事は業者に調理済みの物を配送していただいでいて、食事内容の要望を通すこともできている。畑で育てた野菜を調理して提供したり、食事中に音楽を流したりすることで、五感で楽しめる時間を作っている。利用者の身体的原因で食事が難しいと感じた場合には、歯科に検診・対応を依頼している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせた食事量、水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの状態にあった口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、1人ひとりのパターンに添って自立支援を行っている。	チェック表を用いて排泄の促しを行っている。入所時の聞き取りでは、トイレに物を詰まらせると聞いていた利用者も、実際に入居されると、環境が整っていることから、上記の様子は見られていない。自立して行えることを目指して、ほとんどの利用者が布パンツで生活されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、トイレ誘導、内服薬等を実施し、スムーズな排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間やシャワー浴など本人の希望に添った支援をしている。	利用者ごとに、週3回の入浴日を設けている。入浴を避ける利用者には、職員が会話を楽しめる話題を振ることで、気持ちを高め、入浴に繋げている。入浴したい気持ちが次に繋がるように、人や時間、日にちを代えて促すこともある。ゆず湯や菖蒲湯を入れて季節感も感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣、就寝時間など睡眠パターンを把握し、昼寝やソファでくつろがれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服確認表にて職員は1人ひとりの確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な分野を見極めて一人ひとりの役割や楽しみを見出し、気分転換をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に出かけられたり、スタッフと共に地域の行事等にも家族や地域の人々と協力しながら支援している。又、個々の散歩に行かれるなど支援している。現在コロナ対応にて控えている	以前からの声を掛け合える関係が継続するように、身近な付き合いと挨拶に力を入れている。新型コロナウイルスの感染対策をしつつ、外出ができる方法を考え、6月にはドライブをして、アジサイを車中から眺めている。	利用者の満足度を高めるために、外出の機会を増やしてはいいかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、金銭は持たないようにしている。本人の希望で欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節の貼り絵等を作成し、季節感を取り入れている。又、ソファを置き、生活感を出せるように工夫している。	職員と利用者が一緒に作った折り紙を、季節ごとに換え、リビングに飾っている。室温は利用者の適温に合わせていて、入浴時には個の好む温度に合わせて管理している。利用者間での良好な関係が継続するような配席も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士お話をされたり、貼り絵や体操をされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が懐かしいものや写真等を飾られている。家族とお茶を飲んで頂いている。	居室内の配置は、利用者の導線に配慮している。家族から届けられた写真や誕生日のお花、職員とイベントで作った灯籠等を飾っていて、室内を明るく彩っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり出来る事は自分でして頂き、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200289		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム 倉敷・楽々苑 (Bユニット)		
所在地	岡山県倉敷市西岡1153-1		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念の「自然・安心・快適」を元に四季を感じ、安心して過ごして頂けるように、又毎日を快適に過ごして頂けるように職員一同心がけています。
・ご自分の好きなように自由に過ごして頂けるように、又どのように援助していけば楽しく過ごして頂けるかを考えて毎日を振り返っています。
・医療・歯科なども往診して頂いています。体調不良時にも早く対応して頂き、医療面にも安心して過ごして頂ける環境づくりをしています。
・地域の方との交流にも参加させて頂くなどし、楽しく、快適に過ごして頂けるように心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200289-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 9 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

世代を超えた2人の管理者がタッグを組み、「利用者ファースト」の一節に、福祉への熱い思いを込めていた。事業所理念にある「自然」とは、事業所の風土から自然に触れることを指すだけでなく、利用者と自然体に関わることも含めると語る。法人が掲げる、「0歳から100歳までの総合福祉」から、利用者目線で考えることをモットーに、どうすれば日常生活における基本的行動にも楽しみを抱きながら、その人らしく生活できるのかを事業所全体で考え、行動に移していた。その一環として職員教育にも力を入れていて、勉強会を開く時には職員がレクチャーしたり、職員会議の司会進行を毎月変えることで、意見を挙がりやすくなり、職員のリフレッシュする時間を大切にしたりすることで、利用者と濃い向き合い方をすることに繋げていた。利用者の生活に恵みを与えたいと、チームが一丸となる姿勢に溢れる事業所だった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「自然、安心、快適」を職員全員が把握し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。	理念は、事務所とホールに掲示している。会社と事業所の理念を毎日唱和したり、新入社員が入った際にはオリエンテーションを行ったりすることで、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会、行事、小学校の行事、地域活動には参加し、交流を深めている。現在コロナ対応にて参加は控えている	町内会に入っていて、職員が回覧板を回したり、清掃に参加したりすることで、関係を継続している。地域の方から事業所として活用できるものや、隣接する保育園からぼすたーも受け取っている。事業所の外観学をいつでも受け入れていることから、地域に浸透し始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のお祭りや、教会のバザーやお祭り、小学校行事に積極的に参加し、地域貢献している。現在コロナ対応にて参加は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っている。他職種の方の参加をいただき、意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。コロナ対応の為、実施延期が続いている。	運営推進会議として集まるのが難しく、利用者家族には、月に1回、ケアマネージャーが電話を入れ、状況を伝えている。キリスト教会の方が民生委員にもなっていて、立地も近いことから、日頃の交流から地域の情報共有を図っている。また、行事等の様子をネット上に公開している。	状況報告だけに留まらないように、多方面からの意見が受けられる体制を作ってはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加や市の介護保険課へ出向き、事業所の実情等の話し、協力関係を築くようになっている。コロナ対応の為、実施延期が続いている。	月に一回、役場や包括支援センター、病院へのあいさつ回りを行っている。継続して行ってきたことから、管理者とケアマネージャーが顔役となり、詳細に情報を提供し合える関係性が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画の中での勉強会を行い、共有認識を図り、身体拘束について全スタッフが理解を深めるように努めている。	利用者との関りが強くなることで、慣れが生まれてしまうため、日頃の言葉遣いにも配慮することを伝えている。委員会として実態把握に努め、月に1度状況を回覧し、職員に周知している。夕方に帰宅願望が出やすい利用者には、職員が話しかけることで気持ちの緩和を図り、ケース発生前のケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画として勉強会を行い、高齢者虐待防止マニュアルを参考にし、スタッフ全員共同認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もおられた。又、勉強会においても制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より契約に至る間、電話連絡などにより、不安解消に努め、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族の意見を聞き取り、運営に反映している。又、ケアプランにも本人、家族の思いも反映している。	月に1度、ケアマネージャーが利用者家族に電話を入れて要望を聞いている。利用者からは食への要望が強く、コロナ対策を踏まえて対応している。一つ一つの要望に、利用者の認知の状態を勘案しつつ、可能な限り寄り添える工夫をしていて、利用者が家に電話したいと話した時は、家族と相談しながら受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞いたりしている。定期的にミーティングを行い、意見、提案を出しやすい機会を設け、反映させている。	職員からの意見は、委員会を通すことで、聞き取りやすくしている。月ごとにゲートキーパーとなる職員を代えていて、意見の言いやすい環境も整えている。年に2回、管理者以上の役職の職員が意向の聞き取りを行う場も作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践者研修、管理者研修、介護福祉士等資格取得の支援を行い、資格習得後は各自向上心を持ち、仕事に活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は誰でも行けるようにしている。資格習得希望者には勤務配慮をしている。苑内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やケアマネ交流会に参加させて頂き、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が希望される事、困った事又不安に思っていることを言えるような環境を作り、傾聴共感し、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に連絡を取り、困っていることや不安に思っていることが言えるように傾聴し、受け止められるような環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で本人、家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でされて嫌な事はしない、との思いで職員間で話し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら、本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方々との関係が途切れないように電話等支援に努めている。	家族からは面会したいとの意向が多く見られているため、ビデオ通話等を活用して面会を行っている。利用者の親族から連絡を取りたいと申し出られることもあり、関係性を鑑みたくて、関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う合わないを日頃から観察し、入居者同士支え合う雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し退去されてもいつまでも相談連絡できる関係を維持できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを傾聴し、意向を職員全員で共有している。	利用者の思いを、これまでの生活の様子や趣味嗜好を基に、身振り手振り等からも、職員が推察している。利用者が思いを発しやすいように、普段のコミュニケーションを密に取ることで把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時等にこれまでの本人の生活歴、生活環境の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動記録、バイタルチェック、ケアプランにより把握している。連絡ノートにより全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人、家族と必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に作成し、2週間後には見直しを行っている。その後は、短期で半年、長期で1年間の更新している。事業所内での様子は、会議の場だけでなく、その都度直接連絡したり、タブレットにタイムラインとして揚げたりすることで、職員と情報の共有を行い、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所同士の連絡情報交換により、本人や家族の希望に添えるような支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として小学校や教会を訪問し、交流を深めている。コロナ対策の為、訪問は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医との関係は良く、何事も相談できる体制を取っている。	提携先のかかりつけ医と歯科医が、毎週往診を行っている。他科への通院は、家族が対応していて、馴染の通院先に赴かれている。年に1・2回、歯科衛生士が口腔ケアの講習をしている他、個別指導も行っている。緊急時には、かかりつけ医も職員と一緒に合わせて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師により利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と話し合いながら早期退院も含め、情報交換できる関係作りが来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聴き、それに添って重度化に伴う意思の確認をし、説明を行って医師の往診を受けれるなど支援している。	看取り支援は、事前にキーパーソンとすり合わせ、方向性を定めている。経験豊富な職員が先導を切って、支援方法について、各職員への周知と教育を行っている。デンスカンファレンスを開き、経緯から支援方法、反省点を含めた振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	皆で勉強会を度々行い、全員で話し合い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害を想定して避難訓練を定期的に行っている。	年に3回、避難訓練を行っている。内1回は、水害を想定した訓練を行っていて、隣接している保育園の2階を避難先としている。緊急時の連絡は、現在電話を使っているが、より良い手段について検討を重ねている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、親しみの中に礼節を保ち、本人の希望や意向の把握に努めている。	基本的には、苗字に「さん」を付けて呼称している。ただし、苗字が同じ場合には、名前に「さん」を付けている。入浴や排泄を促す場合には、他の利用者に届かない声で、言葉かけを行っている。尊厳の保持を第一に考えて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分の思いや希望が言えるような雰囲気をつくり、日々密接な関係が保てるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの身体状況にあった暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、髪のカットをして頂いたり、男性の方の髭剃りを行う等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、食事や飲み物を楽しめるように支援している。	食事は業者に調理済みの物を配送していただいでいて、食事内容の要望を通すこともできている。畑で育てた野菜を調理して提供したり、食事中に音楽を流したりすることで、五感で楽しめる時間を作っている。利用者の身体的原因で食事が難しいと感じた場合には、歯科に検診・対応を依頼している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせた食事量、水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの状態にあった口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、1人ひとりのパターンに添って自立支援を行っている。	チェック表を用いて排泄の促しを行っている。入所時の聞き取りでは、トイレに物を詰まらせると聞いていた利用者も、実際に入居されると、環境が整っていることから、上記の様子は見られていない。自立して行えることを目指して、ほとんどの利用者が布パンツで生活されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、トイレ誘導、内服薬等を実施し、スムーズな排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間やシャワー浴など本人の希望に添った支援をしている。	利用者ごとに、週3回の入浴日を設けている。入浴を避ける利用者には、職員が会話を楽しめる話題を振ることで、気持ちを高め、入浴に繋げている。入浴したい気持ちが次に繋がるように、人や時間、日にちを代えて促すこともある。ゆず湯や菖蒲湯を入れて季節感も感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣、就寝時間など睡眠パターンを把握し、昼寝やソファでくつろがれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服確認表にて職員は1人ひとりの確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な分野を見極めて一人ひとりの役割や楽しみを見出し、気分転換をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に出かけられたり、スタッフと共に地域の行事等にも家族や地域の人々と協力しながら支援している。又、個々の散歩に行かれるなど支援している。現在コロナ対応にて控えている。	以前からの声を掛け合える関係が継続するように、身近な付き合いと挨拶に力を入れている。新型コロナウイルスの感染対策をしつつ、外出ができる方法を考え、6月にはドライブをして、アジサイを車中から眺めている。	利用者の満足度を高めるために、外出の機会を増やしてはいいかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、金銭は持たないようにしている。本人の希望で欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節の貼り絵等を作成し、季節感を取り入れている。又、ソファを置き、生活感を出せるように工夫している。	職員と利用者が一緒に作った折り紙を、季節ごとに換え、リビングに飾っている。室温は利用者の適温に合わせていて、入浴時には個の好む温度に合わせて管理している。利用者間での良好な関係が継続するような配席も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士お話をされたり、貼り絵や体操をされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が懐かしいものや写真等を飾られている。家族とお茶を飲んで頂いている。	居室内の配置は、利用者の導線に配慮している。家族から届けられた写真や誕生日のお花、職員とイベントで作った灯籠等を飾っていて、室内を明るく彩っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり出来る事は自分でして頂き、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				